



# OUT THERE Itoshima 志摩園だより

福岡県糸島市志摩久家2527番地の2  
TEL 092-328-2121  
E-mail [shimakai@proof.ocn.ne.jp](mailto:shimakai@proof.ocn.ne.jp)  
<http://www.shimaen.or.jp>

特別養護老人ホーム志摩園  
ショートステイ  
デイサービス  
ケアプラン  
配食サービス

2015.7.31発行  
社会福祉法人  
志摩会  
第48号

小規模多機能型居宅  
介護  
糸島市志摩地域包括  
支援センター



2015.5.9 志摩園創立記念演芸会

## The Entertainer

これも志摩園の “おもてなし” のあり方の  
ひとつ … 今年のキャストは事務室と地域包括  
支援センター、それと新人職員です。

「あたしやあ ほんと たまがつた！」と客席から絶賛のお声が。

昨年9月の稻刈りのあと、そろそろ今年の田植えの準備で賑やかになる5月の下旬、たからんたま志摩(志摩師吉)の棚田でも…



地域の皆さんに荒起こし  
と代掻き作業を手伝っていただき、水田準備完了。



H27.6.6 田植え

大人に見守られ、今年も子供たちが田植えに挑戦。3枚の棚田は小一時間で植付けは終了しました。

手植えの感触はいつまでも思い出に残るでしょう。続くはお楽しみの食事とゲーム。

超マイペースな今年の早乙女



師吉行政区関係者並び師吉区小学育成会、糸島市青年団ほか、大勢のボランティアの皆様のご協力に感謝いたします

6月2日に梅雨入りして、まさに田植え雨ですが、  
さなぼり当日は青空が戻り、光と水と早苗に生命  
のみずみずしさを感じずにはいられません。

# 平成27年度第1回志摩園 入所検討委員会報告

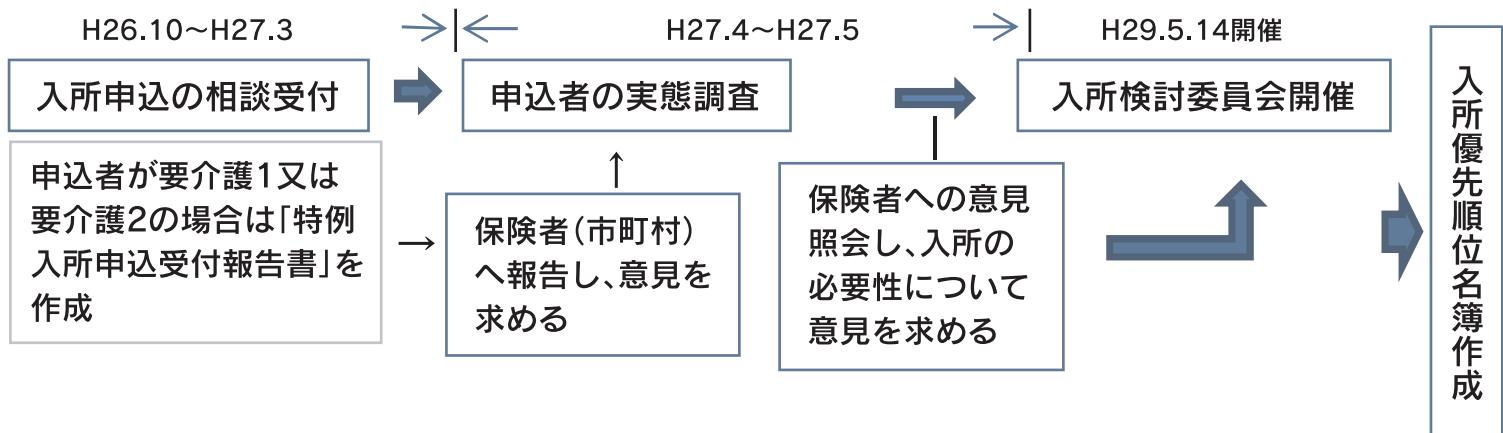
◆介護保険制度が改定され、平成27年4月1日以降は特別養護老人ホームに新規に入所する方は、原則「要介護3、4、5」の認定を受けている人に限定されました。  
今回の入所検討委員会は制度改定後初めての開催です。

**要介護度別申込者の推移 (名)**

	H26.4.1	H26.10.1
要介護5	29	27
要介護4	49	43
要介護3	53	48
要介護2	53	49
要介護1	50	52
計	234	219

平成27年4月1日の入所申込者 (名)		
要介護5	20	】 26年度に比較して全ての要介護度において申込者数が減少している
要介護4	39	
要介護3	45	
要介護2	24	】 特例入所対象者は38名
要介護1	14	
計	142	H26.10の65%まで減少

## ◆平成27年度入所優先順位名簿の作成経過



※平成27年3月31日時点の要介護1、2(見込特例入所対象者102名)の申込者全員に特例入所要件に該当するかの確認を行いました。要件に当てはまり、かつ入所申込継続を希望される方は38名でした。

**特例入所要件は以下のとおりです。** ~福岡県指定介護老人福祉施設等入所指針から

- 認知症であって、日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られる
- 知的障害・精神障害等を伴い、日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さ等が頻繁に見られる
- 家族等による深刻な虐待が疑われること等により、心身の安全・安心の確保が困難である
- 単身世帯である、同居家族が高齢又は虚弱である等により家族等による支援が期待できず、かつ地域での介護サービスや生活の支援の供給が不十分である
- その他

# 平成26年度主要事業報告



## I 職員採用・退職の状況

- 実績報告期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日
- 法人全体の採用職員、退職職員数

	【採用職員】 (名)				【退職職員】 (名)		
	正規	非正規	計		正規	非正規	計
介護職員	5	4	9	介護職員	7	3	10
看護職員	2	0	2	看護職員	3	1	4
保健師	0	1	1	調理職員	1	1	2
機能訓練指導員	2	0	2	機能訓練指導員	1	0	1
介護支援専門員	2	0	2	介護支援専門員	1	0	1
事業所管理者	1	0	1	その他	0	1	1
調理員	0	1	1	計	13	6	19
その他	0	3	3	退職時平均年齢	46.9歳		
計	12	9	21	平均勤続年数	4.3年		
採用時平均年齢	38.2歳			退職理由	・職務遂行能力の不安 ・職員自身の疾病治療 ・職場の人間関係 ・市外転出、育児、家族看護等		
備考	新規採用職員21名のうち、新卒者は4名で、他17名は中途採用者である。						

## II 介護職員待遇改善加算受入状況

(円)

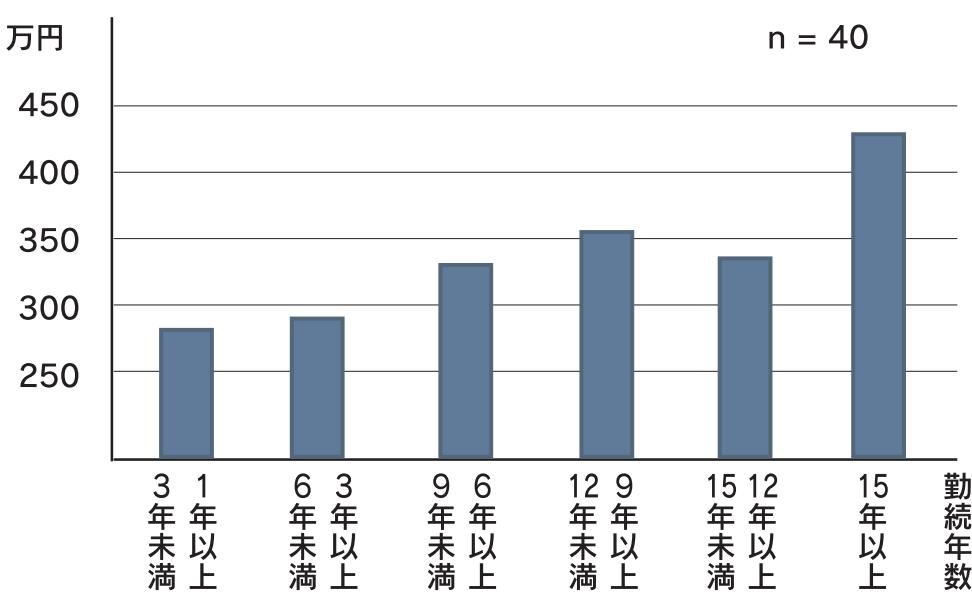
	対象月数	法人全体の加算額
26年度	12ヶ月	15,529,169
25年度	12ヶ月	16,017,368
24年度	12ヶ月	15,625,122

※障害短期入所分を含む

平成27年度は制度改定のため待遇改善加算は大幅増になる見込です。

志摩会も介護職員の更なる労働環境向上に取組みます。

## III 介護職員の平均年収額(H26年 特養正規職員(短時間正職員を含む))



※男女同一賃金ですが、女性職員の割合が多く、勤続年数9年未満のあたりまでに出産、育児休暇を複数回取得する人も多い。育休復帰の年は定期昇給の対象外であり、復帰後短時間正職員を選択するケースもあり、年収の伸びを一時的に抑える一因です。しかし、仕事と生活のバランスを取る意味では有意義です。

## IV 特養の看取り

- 26年度老人ホーム志摩園で看取りをさせていただいた方は9名でした。その中で看取り加算の要件に合致したケースは4名でした。

	看取りの日数
A様	25 日間
B様	43 日間
C様	108 日間
D様	5 日間

### <看取りに困った職員の感想>

- ・怖い。夜勤時は看護職員がいないので特に不安がある。
- ・看取りケア中の方だと、急変があっても慌てないで対応できる。
- ・最期のとき、ご家族が側にいて下さると、これで良かったと思う。
- ・自然の形で看取ることは、ご本人にとっても安楽ではないかと思う。
- ・ご家族から感謝のお言葉を頂いた時、志摩園でしかできない看取りがあるんだと改めて実感した。

### <ご家族の感想>

- ・志摩園だからこそ、ここまで良くしてくれる。家ではとてもできない。
- ・母は幸せです。皆さんに大事にされて。
- ・志摩園だから安心して、母を預けられました。まさか、102歳の誕生日を迎えるなんて思っていなかった…。盛大に誕生日を祝って頂いて感謝しています。

### <ご本人の気持ち>

「志摩園が一番いい。志摩園は自分の家。志摩園には天使がいてくれる、だから病院にはいかない。」

## V 拘束ゼロに向けた取組み

経管栄養チューブ抜去を防ぐため ミトンの使用	4月～6月	7月以降
	2名該当	1名該当

生活相談員及び介護職員で組織する身体拘束廃止委員会が中心となり、法人全体での取組みを主導した。26年度は特に、職員による“スピーチロック”及びミトン、センサーマット、ベッドの4本柵の使用について意識した。

「スピーチロック」とは…例えば「立ち上がらないで」、「動いたらダメ」、「早くご飯を食べて」のような言葉によって相手の行動を抑制したり、制限することと考えられています

## VI 地域貢献活動

### 1. げんき志縁隊

- 志摩地区でサロン活動を17回実施。内容は主に体操、レクレーション等。
- 住民参加者延198名、現地スタッフ延47名、志摩会職員延67名

### 2. オレンジ志縁隊

- 認知症サポーター養成講座等の講師、認知症劇の開催
- 住民参加者延226名、志摩会職員延39名

### 3. せいかつ志縁隊

- 志摩地区配食サービスご利用者に食事、栄養その他生活状況等の面接調査



## 認知症カフェ研究中です…

テレビ、新聞、雑誌などでも認知症に関するテーマの扱いが増えており、一般の人たちもそのような情報に触れる機会も多くなり、認知症について関心が高まっていくことは良いことだと思っています。

では、「認知症カフェ」と聞いて、それが何なのか想像できる方はまだ少数でしょう。

### ■オランダ アルツハイマーカフェ

そもそもはオランダで「アルツハイマーカフェ」が1997年9月に始まったのが最初のようです。「認知症をもつ人やその家族が自分たちの経験や悲しみを分かち合うことができる場所」としてつくられ、好事例を参考にしながら各都市に普及しました。

### ■イギリス メモリーカフェ

イギリスでは、2009年2月、政府が認知症国家戦略を打ち出した後、「メモリーカフェ」として本格的に活動が展開してきました。メモリーカフェは、認知症の診断を受けた人たち、自分の記憶力（記憶の低下、もの忘れ）について悩んでいる人たちやそれらのために日常生活上で困難を経験している人たちに専門家やボランティアが相談にのりながら、同じ境遇にある人同士が相互に支える、社会からの孤立を防ぐ機能を発揮します。

### ■日本 認知症カフェ

さて、わが国では、厚生労働省が2012年6月「今後の認知症施策の方針について」の中で、「認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき、集う場」として、認知症カフェを普及させ、認知症の人やその家族等に対する取組みのひとつとして発表されました。実際には、それ以前から全国で約30ヶ所の「認知症カフェ」が活動してきたようで、その目的や実施している内容もバラエティに富んでいます。さらに、新オレンジプランに引継がれた後も、「認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う」認知症カフェ等の設置の推進が盛り込まれています。



※実践事例から認知症カフェのもつ意味をいくつかご紹介します

- ・敷居の低い相談場所、医療・ケア・福祉の入口としての意味
- ・住民の誰もが自由に訪れることができる場所で開かれること
- ・病気の進行とともに、認知症カフェで対応できない場合は別のケアに継続可

社会福祉法人志摩会は、糸島市の整備方針を踏まえながら、地域の皆様のご要望に応えたいと考え、認知症カフェについて研究をはじめました。私たち自身がある程度明確にそのアウトラインをつかんでいくなかで、国内外の先駆的取組みも参考にしながら、“地域版”を作れたらいいかな と現段階のイメージがあります。

連載  
企画

# いろんな職種から見た 介護の仕事

(第5回)

職員リレー



**志摩会に働く170人余りの職員の皆さんに仕事や職場、仲間への思いなどを語ってもらっています …**

入所者皆様の笑顔を見たり、お話しすることが私の励みになります



江口 由美  
(特養 調理員)

◆志摩園に勤務して14年になります。それまで専業主婦をしていましたが、子供たちも

手を離れたのをきっかけに「自分探し」に仕事を始めました。  
◆最初は介護の仕事をしてみたいと思っていましたが、私に何ができるか考えたとき、食事を作ったり、人にご馳走したりするのが本当に好きだったので厨房の仕事を選びました。実際にこの仕事を選択して良かったと思っています。今は子供たちも独立して、夫婦二人の生活で、自分の為

の時間がたっぷりでき、1年に一度友達と行くプチ贅沢旅行が樂しみです。韓国のカジノやエステ、今年開通したばかりの北陸新幹線で金沢にも。  
◆これからも、体力が続くなれば入所の皆様に明るい笑顔と美味しいお食事を提供できますよう、頑張りたいと思います。

多職種が連携してその方にとって今必要なケアにつなげるよう努力しています



山崎 寿美子  
(特養 ケアマネジャー)

一緒に頑張っているんだと実感できる瞬間でもあり、ご利用者にとってより良い結果につながった時は嬉しく、安堵します。

◆ふるさとドライブ（ご自宅やなじみの場所へのお出かけ）では、ご近所やご友人も来られ、ご本人の喜しさも伝わってきて、更にご家族から感謝のお言葉を頂くと、またお連れしたいと思います。入所後

も地域とのご縁が継続でき、それがご本人の樂しみとなり、リハビリへの意欲も高まるようです。

◆私の樂しみはビールを飲みながら、テレビを見ること。労働後のビールは格別に美味しい、ついつい飲みすぎに…明日から1本減らそう！と己を叱咤しますが、日々反省の繰返しです。

よく食べ、よく寝て、よく遊ぶをモットーに健康体をキープしています



木龍 美幸  
(特養 介護福祉士)

めです。

◆入所の皆様のケアそのものにも、また職員の入所者に対する思いなど学ぶことが多々あります。私がケアに悩んだり、迷ったりしても周りの職員の方に助けて頂きながら仕事ができ、感謝しています。まだ未熟ですが、入所の皆様、職員の方々と笑顔いっぱいの日々を過ごしていきたいと

思っています。

◆趣味は食べること。昔からよく食べ、何でも食べます。唯一嫌いなものは…落雁です。食欲がない時は悩みがあるときで、それをみて家族や友人はすぐわかってくれます。

◆食べた分しっかり身に着く体质で、ライアップのCMがいつも気になる年頃デース。

◆志摩会に入職して2年が経ちました。それまでは、別の法人でデイケアなど通所系で働いており、入所施設は志摩園が初

# 志摩園夏祭りは 8月8日(土)開催予定です



- ・日 時 平成27年8月8日(土)17時40分~
- ・会 場 特別養護老人ホーム志摩園  
駐車場
- ・駐車場 引津小学校及び引津公民館  
駐車場借用予定

※安全運転にご協力をお願いします

◆お問合せ 志摩園 TEL092-328-2121

◆雨天中止

**【編集後記】** ～今日の仕事はつらかった。後は焼酎をあおるだけ…、50年近い前のこの歌詞が胸に浸み入る上半期でした。順調に進んでいるもの、予想以上に成果を出しているものがある一方、思わぬ出来事が起こったりしています。

当たり前のことですが、全ての事象には原因と結果があるものです。巷間言われるよう、「良いことも悪いことも長くは続かない」、だから毎日気を引き締めて仕事に臨まなければと思っています。

アメリカの社会福祉研究者ヘレン・パールマンの言葉だったと思いますが、

**「生きることは絶え間ない問題解決の過程であり、困難は病理ではない」**

20年以上前、社会福祉士資格をとるため通信教育で勉強していた頃、私は初めてこのことに出会いました。自分だけがつらい、苦しいわけではない。生きること自体が問題解決の連続であり、それが普通なんだと考えれば気持ちが楽になります。

プライベートなことや仕事のことなどで誰でも何某かの課題を抱えながら生活をしている、それが当たり前なんだと今になって、この言葉が私を支えてくれることになるとは。

自分で自分の評価と診断をすることで、少し客観的に「状況」を見て、一つ一つの問題にゴールをイメージするようにしました。

私たちの仕事は立ち止まることができません。常に前に進んで行かなければなりません。私たちの仕事はソーシャルワーク、この援助技術を基礎に成り立ち、（意識しなくとも）老人ホームや在宅サービスの場でも、地域の中でも普段から使っているのですが改めて、その力動を実感します。

どんなに小さく、たわいのない夢や希望でもそれがあれば乗り越えていける気がします。彼の歌の最後は、「だけどオレたち泣かないぜ。働くオレたちの世の中がきっときっと 来るさそのうちに その日が来たときや うれし泣き…」と結ばれます。

Info

## 賀寿お祝い（青海館）



樋渡モキ様(満100歳)



前川イサ工様(満90歳)

6月22日、御二家族も大勢参加され、職員と共に長寿をお祝いできました。

(A・K)